

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：23804

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K01760

研究課題名（和文）技能系老舗同族企業における事業・技能継承に関する研究

研究課題名（英文）Research on Business and Skills Transfer in Long-established Skilled Family Firms

研究代表者

曽根 秀一（Sone, Hidekazu）

静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授

研究者番号：70634575

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、刃物産業の技能系老舗同族企業に着目し、事業や技能継承にかんして理論的・実証的研究を行う事である。この研究課題に基づき老舗同族企業の存続メカニズムを技能的及び伝統的地場産業の視点から着目した。

フィールド調査では、刃物産地である日本の関、堺、ドイツのゾーリングゲン、英国シェフィールド等に赴き比較研究を行った。本研究を通じ伝統産業の活性化が地域経済に与える影響の大きさを示した。また経営課題や理念がファミリーに継承されると同時に従業員にも共有されている事を示した。研究成果は5冊の書籍、13本の論文（うち2本の査読付国際雑誌）、28件報告、中小企業研究奨励賞など複数の学会から受賞した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は先行研究では皆無に等しい技能系の老舗同族企業に着目したこと自体に学術的意義がある。特に刃物産業への着目は重要性も高いと考える。伝統産業は地域に根付いているため、その活性化が地域経済に与える影響の大きさを示した。

加えて先行研究や理論検証を行い、限界と新視点を提示した。更に他業種企業、業界組合など様々なネットワークを活用かつユニークな人材育成（自社育成、研修制度、多能工養成等）に努めている事が明らかになった。社会的意義として、地方地域の事業や技能継承は重要な課題であり、本研究では地域の伝統産業の継承における経営理念、課題について論じた。また老舗同族企業の競争上の優位性についても示した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to conduct theoretical and empirical research on business and skill succession, focusing on long-established family-owned firms in the cutlery industry.

Field research was conducted in the cutlery production areas of Seki and Sakai in Japan, Solingen in Germany, and Sheffield in the UK, to conduct comparative research. Through this study, we demonstrated the significant impact that the revitalization of traditional industries has on local economies. We also showed that management philosophy and management issues are not only passed on to the family, but also shared with employees.

It also showed that management issues and principles are passed on to the family and shared with employees at the same time. His research results have been published in 5 books, 13 papers (including one in a peer-reviewed international journal), and received several awards from academic societies, including the Small and Medium Enterprise Research Encouragement Award.

研究分野：経営組織論

キーワード：老舗 ファミリービジネス 技能継承 事業承継 ゾーリングゲン 刃物産業 SEW ドイツ

1. 研究開始当初の背景

本研究の研究開始当初の背景には、老舗企業研究に山積する多くの課題に対する取組みがあった。とくに、商家研究や会計研究といった歴史的研究が基盤として展開されてきたため、技能系の企業はほとんど着目されてこなかった。

これらを鑑み、研究代表者の曽根はこれまで建築、鑄造、刃物などの技能系企業に着目し、多数の著書や論文、報告等にまとめてきた。分担研究者の上野もまた以前より刃物産業に関心を持ち、関連する複数の論文を調査研究してきたことで知られる。このため、共同研究を行うことで上記に挙げた問題点の解決を試みた。とくに、商家とは異なる存続のあり方を調査研究することで、これまでの老舗研究の存続のあり方に対し、新たな視点を見出せると考えた。

世界には有名な刃物産地がいくつかある。そのなかで、イギリスのシェフィールド (Sheffield)、ドイツのゾーリング (Solingen) そして日本の岐阜県・関は世界三大刃物産地として知られている。もちろんそれ以外にも有名な刃物産地は数多く存在するが、多くは産地として集積し、古くから発展してきた。それぞれの地域で成立の経緯も発展の歴史も、また得意とする製品も異なる。しかしながら、多くは人々の生活に密着した刃物製品の特性上、各地域に古くから存在し、手作業で刃物を作っている中小の家内制手工業的な作業所が多い。そのような中で、世界三大刃物産地は比較的大規模な工場を持った企業を生み出し、世界的に貿易を展開し、大きく成長してきた。なぜ、これらの地域の刃物業者は長期間存続し、時に大きく成長することができたのであろうか。これらの地域が世界的な刃物産地の中心となりえた理由を明らかにすることを目的とし、ファミリービジネス研究にも着目しながら研究を実施した。

2. 研究の目的

上記で示した先行研究に基づく課題から、本研究では、商人系ではなく技能系の刃物企業を研究対象とし、各社の伝統的組織と近代の組織の比較をインタビューや史資料調査を交えながら行うこととした。

さらに、市場や技能の変化、技能と経営の人材の育成、ビジネスシステム、SEW (Socio-emotional Wealth) 理論などに着目し、存続の要因を探った。世界三大刃物産地と称されたものの英国のシェフィールドは大きく衰退した。他方で、ドイツのゾーリングは存続の危機に瀕したものの再生を果たした。日本の関や堺なども明治期に危機を迎えたが、時代に適応、革新を行うことで存続を果たしたのである。

このように一大産地であったこれらの産地になぜ差異が生じたのか、経年的に上記の産地や企業が刃物製造を営む際に構築する他者との関係を通じて、存続と衰退のメカニズムに着目し論じていくこととした。

本研究では、国際比較を通じて、より広い視点で老舗刃物企業や産業を論じるため、日本、ドイツ、英国の企業との比較調査を行うことで、その実態や特性を明らかにしていくこととした。これらの成果は、著書、査読付きも含めた論文、学会報告などを通じて行った。

3. 研究の方法

本研究は、「研究目的」において示された内容のもと、具体的に以下のような計画の下で研究を推進した。

初年度は、主に組織文化論、資源依存論、ビジネスシステム、SEW などに着目しながら、老舗企業論、ファミリービジネス論、刃物産地、刃物製造企業、技術史といった幅広い視点から、文献渉猟と整理を行った。

さらに、刃物企業にかんする研究は技術史的な研究は散見されるものの経営学分野においては皆無に等しい。このため、国内外の刃物製造企業の存在そのものの調査を行う必要があるため、企業の洗い出し（リスト化）を実施し、調査対象の企業の実態を確認した。

これらから得た情報をもとに、国内外の各企業へのアクセスと同時に、詳細なフィールドワークを行い、インタビューや一次史料も多分に含んだ資料収集を行った。また、レビュー論文の作成と分析枠組みの構築を行っていった。

これらの理論研究、フィールドワークを通じて、経営学における多様な研究分野を網羅し、現在の理論・経営問題を俯瞰することで、それぞれに必要となる方法論的検討を行った。その基礎的ベースとなるのが、老舗企業研究、ファミリービジネス研究、ビジネスシステム、SEW 理論である。また、研究代表者ならびに分担研究者は、老舗刃物企業の当主（経営者）やそのステークホルダーとなる取引会社、職人の方々とは長年、協力関係にあり、信頼関係を構築してきたため、これらのつながりをいかにしながら研究を進めた。

4. 研究成果

上記の本研究課題をもとに、フィールドワークで蓄積されたケースを分析、検討、改定し、ここから得られた研究成果は、(1) 学会報告、(2) 学術誌、(3) 著書、(4) ワーキングペーパー（リサーチペーパー）として発表された。

(1) 学会発表

各研究領域における理論的検討は、国内外の学会で合計 28 件（国内 20 本、海外 8 本）報告を行い、さらなるブラッシュアップを図った。なるべく代表者と共同研究者とで共同執筆、報告を実施することを心掛けた。その結果、論文公刊や学会報告を行うことが出来、本研究の検証や発展に寄与することができたとも考えている。

具体的には、国内では、当初の予定通り、本研究テーマに密接に関連する組織学会やファミリービジネス学会等で報告を行った。

組織学会では、4 回報告を行ったが、とくに、2018 年の「伝統産業の衰退と経営革新：刃物産業の事例研究」および 2019 年の「ファミリービジネスのガバナンス：創業家の正当性とは何か」の報告は本研究課題の基盤となった。

ファミリービジネス学会においては、2022 年に、「伝統産業の競争優位性についての考察：日本とドイツの刃物産業の事例」と題して曾根と上野が共同報告した。上野が日本の堺の事例について論じ、曾根がドイツの事例について論じた。

国際学会では、曾根が、JIMS 2021, Jagannath International Management School International Conference において、*The strategy for sustaining of Japanese firms* をテーマに論じた。また、上野が、2019 年に、Indian School of Business において、7th Asian Invitational Conference on Family Business が開催され、そこで “Familianness and the

Competitive Advantages of Family Businesses: A Case Study of Japanese Family Firms”, と題して報告した。2021 Asia-Pacific Family Business Symposium においては、*Familiness and Competitive Advantage of Family Business in Traditional Industry: A Case Study of Cutlery Industry* と題して上野と曾根で共同報告を行った。ここでは、ファミリービジネス研究、老舗企業研究のレビュー、SEW の分析視角を提示し、日独の刃物産地をあげ理論的考察を行った。

(2) 学術誌

これらの学会ならびに研究会などにおける報告、発表で得たコメントをもとにして、国内外において論文を積極的に投稿した（海外査読付は1件）。

国際学術誌においては、8M The Journal of Indian Management & Strategy, Vol.23 (3) に、Innovation Culture in a Family Business と題してカナダの研究者2名とともに公刊した。

国内論文においても上野と曾根が共同執筆することで考えやアイデアを共有することが出来た。

2021年、2022年と2年連続で上野と曾根が『関西大学社会学部紀要』に共同執筆した。2021年には、「刃物産地の生き残り戦略：イギリス・シェフィールドとドイツ・ゾーリンゲンの事例」、2022年には、「伝統産業におけるファミリービジネスの競争優位：日本とドイツの刃物産業の事例研究」と題して執筆した。

また、曾根が海外研究者などと共著で、ファミリービジネス学会誌において、*Competitive Strategy of Suzuyo in Japan : Socio-Emotional Wealth* と題して執筆した。ここでは、ビジネスシステムおよびSEWの共通性を指摘し、存続の重要性を論じた。

その他にも技能系企業に着目しながら、その実態や事例研究、史資料（古文書翻刻含む）など、研究の蓄積を重ねた。

(3) 著書

経営学として体系化した著書の出版を念頭に計画していった。具体的事例を分析し、経営学および諸関連の理論を用いて、これらを包括した先端的な議論の論文レビューを行った。具体的には以下の書籍があげられる。

『老舗企業の存続メカニズム』（中央経済社、2019年、単著）において、老舗企業の長期存続および衰退のメカニズムについて経営学の理論を通じて明らかにした。本著では、中小企業奨励賞本賞、企業家研究フォーラム賞、ファミリービジネス学会賞など複数の学会から受賞した。

『ドイツ企業の統治と経営』（中央経済社、2021年、共著）では、長年研究を行ってきたドイツ・ゾーリンゲンの産地の特性や同地を支えた老舗企業の事例をあげて、産地や企業の存続、承業経営者の第二創業への取り組みにも着目して詳細に論じた。

海外からは、*Information Transmission and Distribution Systems: Theory and History in Regional Perspective* を出版した（Springer, 2022年、共著）。曾根が担当する章では、*On the Existence and Sustainability for the Long-Standing Firms* と題し、長期存続企業の特性について事例も含めながら記した。

また、『新 経営戦略論』（学文社、2022年、共著）では、RBV やファミリービジネス研究、ビジネスシステム論などについて、老舗企業研究の理論的基盤についてもまとめた。

(4) ワーキングペーパー、報告書

本研究課題は、老舗刃物企業というこれまで論じられてこなかった分野を扱うため、先行研究が極めて乏しいという事情があった。これらを鑑み、一次史料調査、インタビュー調査といった丹念なフィールドワークを行う必要があった。

こうしたワーキングペーパーの成果をまとめ上げることで、それを具に議論を重ね、学術論文としても十分な水準を維持することができるような水準を担保してきた。実際、定期的にワーキングペーパーとしてまとめ、またそれらの事例をもとに、論文や本(共著)などに公刊した。

尚、方法論的検討もまた有意義であると考え、方法論的検討によって、本研究テーマに参考となる点を見い出すことが出来た。つまり、個別の研究領域を超えて検討すべき課題は、経営学における各研究領域を超えた検討が可能になると考えるためである。

そこから得られた成果を論文ならびに書籍や論文等に反映させた。

以上、本研究当該期間において示した成果(業績)は、学会等での発表、報告は28件(国内20本、海外8本)、論文公刊13件のうち国際雑誌(査読付)2件、書籍は5件であった。また、本報告書には記載していない少規模の研究会における報告も積極的に複数回行うことが出来た。

この研究成果については、研究期間中に数多くの学会賞(2019年度/ファミリービジネス学会・学会賞/日本地域学会・学会賞著作賞/日本ベンチャー学会・清成忠男賞/中小企業研究奨励賞本賞/2020年度企業家研究フォーラム賞)を受賞したことから明らかなように、わが国のアカデミズムにおいて高い評価を得ることになった。

このような新たな技能系老舗企業の存続や衰退のあり方を克明に経営学をベースとした分析視角や国際比較を通じて研究を行ってきた。その結果、これまで論じられてきた定説の不十分な点を指摘するとともに、その不十分な課題を業種別、とくに刃物製造企業の豊富なケースを事例にあげ存続のあり方を明らかにしたことが、本研究課題の持つ最大の研究成果であると考えられる。これらの成果を通じて、わが国における研究水準の確認と国際的評価向上に一定の貢献ができたものとする。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 曾根秀一	4. 巻 2021年9月号
2. 論文標題 イタリア最古の企業 マリネッリ社の存続戦略ー技能系伝統産業のビジネスシステム及び社会情緒的資産 (SEW) から見た長期存続の条件ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 商工金融	6. 最初と最後の頁 4-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 上野恭裕、曾根秀一	4. 巻 第53巻第2号
2. 論文標題 伝統産業におけるファミリービジネスの競争優位ー日本とドイツの刃物産業の事例研究ー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 91-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 曾根秀一、加護野忠男	4. 巻 No. 2020- 17
2. 論文標題 (調査報告) 京都の長寿企業 株式会社田中伊雅佛具店: 代表取締役社長 田中雅一氏にきく	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸大学経営学部 Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Sone, Hidekazu, Lam Jose, Kagono Tadao, Maeda Yuji	4. 巻 8,9
2. 論文標題 Competitive Strategy of Suzuyo in Japan: A Long-standing Logistic Firm from a Viewpoint of Innovation, Business System and Socio-Emotional Wealth	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ファミリービジネス学会誌	6. 最初と最後の頁 13-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曾根秀一、吉村典久	4. 巻 21
2. 論文標題 ドイツにおけるミッテルシュタットの統治および経営にかんする研究：ペリンガー社を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 静岡文化芸術大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mei Hua Liao、Hidekazu Sone	4. 巻 2020
2. 論文標題 Do institutional investors like local longevity companies?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IMIS2019 Proceeding	6. 最初と最後の頁 758-761
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-22263-5_72	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 曾根秀一	4. 巻 第73巻第3号
2. 論文標題 ファミリービジネスにおける国際化戦略及び第二創業にかんする準備的研究ー堂島酒醸造所の事例ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済学論究	6. 最初と最後の頁 27-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野恭裕	4. 巻 145
2. 論文標題 中小企業としての経営資源としてのネットワーク	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊ひょうご経済	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曾根秀一	4. 巻 1
2. 論文標題 地域防災・減災において中小企業が取り組むべきこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静岡文化芸術大学特別研究報告書	6. 最初と最後の頁 17-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jose Lam, Hidekazu Sone, Jacqueline Walsh	4. 巻 23巻3号
2. 論文標題 Innovation Culture in a Family Business	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 8M The Journal of Indian Management & Strategy	6. 最初と最後の頁 42-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 曾根秀一	4. 巻 419
2. 論文標題 企業のリスクマネジメント及び存続にかんする準備的研究－老舗江州系企業（上野久太郎家、宇野彦左衛門家、宇野喜平家、森伝蔵家）を事例に－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 彦根論叢	6. 最初と最後の頁 118-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野恭裕	4. 巻 第54巻第1号
2. 論文標題 伝統産業におけるブランド戦略 - 淡路島線香産業の事例研究 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 97-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 上野恭裕、曾根秀一	4. 巻 第52巻第2号
2. 論文標題 刃物産地の生き残り戦略：イギリス・シェフィールドとドイツ・ゾーリンゲンの事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 関西大学社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 93-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件（うち招待講演 18件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 Sone Hidekazu
2. 発表標題 The strategy for sustaining of Japanese firms
3. 学会等名 JIMS 2021, Jagannath International Management School International Conference (New Delhi, India, ZOOM) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 曾根秀一
2. 発表標題 伝統建築の技の継承：経営学、教育学の視点から
3. 学会等名 静岡文化芸術大学公開講座「匠とデザイン」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ueno Yasuhiro、Sone Hidekazu
2. 発表標題 Familiness and Competitive Advantage of Family Business in Traditional Industry: A Case Study of Cutlery Industry
3. 学会等名 2021 Asia-Pacific Family Business Symposium, University of Western Australia (Perth, Australia, ZOOM) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 曾根秀一、塚本喜左衛門
2. 発表標題 近江商人の道：三方よし精神とバトン・リレー
3. 学会等名 組織学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 曾根秀一
2. 発表標題 近代土木建築業界の礎を築いた立志伝中の人：大林芳五郎・大林組
3. 学会等名 企業家ミュージアム講座「企業家学」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 曾根秀一、上野善久
2. 発表標題 創業家出身経営者の役割
3. 学会等名 企業家研究フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 曾根秀一
2. 発表標題 隠れたチャンピオン、ミッテルシュタント（Mittelstand）
3. 学会等名 日刊工業新聞社（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 曾根秀一
2. 発表標題 老舗ファミリー企業の存続と衰退のメカニズム：技能系企業のビジネスシステム
3. 学会等名 日本商業学会関西部会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根秀一
2. 発表標題 老舗企業の存続メカニズム
3. 学会等名 100年経営の会 総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mei Hua Liao、Hidekazu Sone
2. 発表標題 Do institutional investors like local longevity companies?
3. 学会等名 IMIS2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根秀一
2. 発表標題 地域に根差した欧州老舗ファミリービジネスの存続戦略：オーストリア、ドイツ企業の事例から
3. 学会等名 ファミリービジネス研究所関西セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根秀一
2. 発表標題 地方地域に根差した欧州老舗ファミリービジネスの存続戦略
3. 学会等名 100年経営の会勉強会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉村典久、落合康裕、曾根秀一、上野善久
2. 発表標題 ファミリービジネスの創業家の正統性
3. 学会等名 ファミリービジネス学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥村昭博、加護野忠男、秋澤光、吉村典久、上野善久、落合康裕、曾根秀一
2. 発表標題 ファミリービジネスのガバナンス：創業家の正当性とは何か
3. 学会等名 組織学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根秀一
2. 発表標題 老舗企業の存続メカニズム：金剛組を事例に
3. 学会等名 日本国際情報学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hidekazu Sone
2. 発表標題 Secrets of family business longevity
3. 学会等名 IMT Conference in Ho Chi Minh City (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根秀一
2. 発表標題 地域における企業、産業の存続：イタリア、日本の事例を中心に
3. 学会等名 100年経営の会勉強会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mei Hua Liao, Yi-Jun Guo, Hidekazu Sone
2. 発表標題 Structure of Long-Lived Company
3. 学会等名 IMIS 2018 Innovative Mobile and Internet Services in Ubiquitous Computing (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上野恭裕、森田裕之、近藤真司
2. 発表標題 伝統産業の衰退と経営革新 - 刃物産業の事例研究 -
3. 学会等名 2018年度組織学会研究発表大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sone Hidekazu, Akizawa Hikari, Kobayashi Koichi
2. 発表標題 How Does Family Entrepreneurship Work under Environmental Discontinuity? Business-model Transformations of the Takenaka Corporation over 150 Years
3. 学会等名 UWA Family Business Symposium (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ueno Yasuhiro
2. 発表標題 Familianness and the Competitive Advantages of Family Businesses: A Case Study of Japanese Family Firms
3. 学会等名 7th Asian Invitational Conference on Family Business (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上野恭裕、曽根秀一
2. 発表標題 伝統産業の競争優位性についての考察：日本とドイツの刃物産業の事例
3. 学会等名 ファミリービジネス学会第15回年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hidekazu Sone
2. 発表標題 Sustainable Management from Long-Standing Companies: Focusing on Italian and Japan Companies
3. 学会等名 Italy- Japan Business Group (IJBG) General Asembly (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mei Hua Liao、Hidekazu Sone
2. 発表標題 Study on Business Continuity of Small and Medium-sized Firms in Japan: Focusing on BusinessContinuity Planning for Natural Disaster Risk
3. 学会等名 IMIS 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 曾根秀一
2. 発表標題 老舗企業の存続と衰退に関する研究
3. 学会等名 関西農業史研究会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田村潤、野田泰三、曾根秀一
2. 発表標題 実践を通じた経営理念浸透と人材育成
3. 学会等名 日刊工業新聞社 100年経営の会、日本ものづくり会議 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 曾根秀一
2. 発表標題 中長期的なマルチステークホルダーへの貢献と取り組み
3. 学会等名 関西経済連合会 定期研究会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 曾根秀一
2. 発表標題 老舗企業の存続要因
3. 学会等名 FDJCフォーラム（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 寺本義也、大森信、曾根秀一、小沢貴史、矢寺顕行、高井透、金崎賢希、依田祐一、水越康介	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 238
3. 書名 新 経営戦略論	

1. 著者名 Kawano Masamichi、Kourtit Karima、Nijkamp Peter、Higano Yoshiro、Sone Hidekazu etc	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 506
3. 書名 Theory and History in Regional Perspective	

1. 著者名 加護野忠男、吉村典久、三上磨知、松本雄一、小林崇秀、井上達彦、真鍋誠司、石井真一、稲葉祐之、河合篤男、出口将人、竹田明弘、曾根秀一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 碩学舎	5. 総ページ数 275
3. 書名 1からの経営学（第3版）	

1. 著者名 吉村典久、曾根秀一、	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 168
3. 書名 ドイツ企業の統治と経営	

1. 著者名 曾根秀一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 255
3. 書名 老舗企業の存続メカニズム	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>静岡文化芸術大学 教員紹介 https://www.suac.ac.jp/education/teacher/culture/soneresearchmap https://researchmap.jp/053 research map (曾根秀一) https://researchmap.jp/053 文化政策学科・曾根秀一准教授の著書が「2020年度企業家研究フォーラム賞」を受賞しました https://www.suac.ac.jp/researchcenter/topics/education/2020/02224/ 静岡文化芸術大学 教員紹介 (曾根秀一) https://www.suac.ac.jp/education/teacher/culture/sonere/ 静岡文化芸術大学 教員紹介ホームページ https://www.suac.ac.jp/education/teacher/culture/sonere.html 文化政策学科・曾根秀一准教授の著書が2つの学会で学会賞を受賞しました https://www.suac.ac.jp/news/topics/2019/01970/ 文化政策学科・曾根秀一准教授の著書に対する中小企業研究奨励賞本賞受賞の決定が発表されました https://www.suac.ac.jp/researchcenter/news/2019/02094/ 関西大学 教員紹介ホームページ (上野恭裕) https://gakujo.kansai-u.ac.jp/profile/ja/J9bac5b8cd7bdf83f1b0b2f0d4e2.html</p>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	上野 恭裕 (Ueno Kunihiro) (30244669)	関西大学・社会学部・教授 (34416)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	Universitat Witten Herdecke	The Foundation for Family Businesses	Ludwig- Maximilians-Universitat	他2機関
カナダ	Memorial University	Concordia University		
その他の国・地域	Asia University			